

9月議会決算特別委員会 高瀬菜穂子委員

基地問題 中小企業支援 危険なメガソーラー設置による林地開発、 「盛り土」問題などで論戦



築城基地問題で知事(左端)を質す高瀬委員

「攻撃されることが前提」 築城基地の米軍基地化に反対

航空自衛隊築城基地での米軍の緊急時使用受け入れのための施設整備にあたり、防衛省は来年度の概算要求で、「分散パッド」(有事に備え、被害を最小限に抑えるため分散して駐機するためのもの)10億円、「司令部庁舎の整備」27億円を要求しています。高瀬委員は、攻撃を受けることを前提とした施設整備ではないかと指摘。築城基地の施設整備及び米軍の基地使用に反対するべきではないかと追及しました。

知事は、「国において適切に運用されるべきもの」との従来の見解を繰り返しました。

飯塚市白旗山メガソーラー建設の 許可取り消し求める



崩落した調整池の上部で本工事が行われている写真を示し、追及する高瀬委員

飯塚市白旗山のメガソーラー建設は、防災施設の建設を本工事に先行して行うことが条件となっていますが、雨水を溜める2つの調整池の斜面で落石や崩落が発生しています。にもかかわらず、業者はソーラーパネルの設置工事を進め、住民から怒りの声が上がっています。高瀬委員は一連の事故について質しました。

「豪雨災害が起これば熱海の何倍もの被害になる」と、許可取り消し処分を求めました。



中小企業支援の強化・充実を要望 月次支援金延長へ

昨年度実施の「持続化緊急支援金」は予算の3分の1が使われず、「一時支援金」は19億円の予算に対して給付実績は2億4000万円余であることが明らかになりました。現在、申請を受け付けている「月次支援金」も32億円の予算に対して、8月末の給付実績は2億円にとどまっています。高瀬委員は、「制度を知らないという方もたくさんおられた」と語り、支援は十分とは言えないと指摘。9月までとなっている「月次支援金」の延長と、支給額の引き上げ、対象の拡大を求めました。福岡県は9月議会最終日の10月14日、月次支援金を延長する補正予算案を提案。全会一致で可決されました。



「盛り土」災害を避け

熱海市の土石流災害を受け、各地で不安の声が上がっています。高瀬委員は久留米市における不適切な残土処理問題を取りあげ、福岡県としても厳しい法規制を国に求めるよう質問しました。県は「今年秋の、国への提言において、新たに重点項目の一つとして要望していく」と述べました。

高瀬委員は研究者が「建設残土についても産廃と同様のマニフェストを導入すべき」と述べていることを紹介し、「盛り土」による災害が起こることがないように、県としても取り組みを強化することを求めました。



危険な盛り土を調査する県議団



コロナ禍における女性への支援 盗撮問題 GIGAスクール構想、特別支援学校設置に についても質問しました。

詳しくは
県議団ホームページを
ご覧ください。



2020年度一般会計決算認定に日本共産党反対 立川県議が反対討論

2020年度決算の認定にあたり、立川由美県議が反対討論を行いました。

立川県議は、無症状の陽性者を保護するための積極的な検査は今も実施されていないと指摘しました。病床確保が遅れたにも関わらず、県は、重点医療機関の指定にあたって独自のルールを設けたことで、同様に陽性者を受け入れた医療機関の病床確保料に差が持ち込まれたと批判しました。

コロナ禍における中小事業者への支援についても、支援金の給付実績が少なく、十分なものであったとは言えず、国が少人数学級の導入に動き出したにもかかわらず、少人数学級に対する独自予算をまったくつかなかったと指摘し、不要不急の開発事業を徹底して見直すこと、命とくらしを守る予算措置にすべきだと強調しました。

